

BLUM & POE

Los Angeles, New York, Tokyo

春の暖かな日に関根伸夫に想いを寄せる

河鍾賢

私は、関根伸夫と日本、韓国、そしてロサンゼルスで何年にもわたって共に時間を過ごしたものだ。一緒に展示を観に行き、食事やお酒を酌み交わしながらそれぞれの作品や修練（具体性、空間、環境に関してなど）について深く語り合った。彼は、作家としての在り方、それゆえの悩み、そして互いの個人的な事も共有できる友人であり、仲間でもあった。

関根は、1980年代に開催された東京の鎌倉ギャラリーでの私の個展の初日には必ずお祝いに駆けつけてくれた。これはその後何十年も続き、2014年にブラム・アンド・ポー・ロサンゼルスで開催された「単色画」展の初日に来てくれたことも大変感謝している。もちろん、韓国に足を運んでくれたことも良く覚えている。

彼と共に参加した展覧会のオープニングやイベントなどで、関根は彼の同期の仲間たちを私に紹介してくれて、そのおかげでたくさんの素晴らしい日本の作家に出会うことができた。会話を重ねていく中で、互いの事をより深く知り、私たちの運命が絡まり続けたことで、互いに誠実な愛情を育んできたと思っている。

関根が私のスタジオを訪れた際に作品を持って来てくれたので、私もその親切な贈り物のお返しに自分の作品を贈った。彼から贈られた作品は、今私が彼との思い出に浸りながらこの文を書いている書斎に誇らしげに飾られている。

5月13日が関根の一周忌になる。彼の追悼文を書いていると、ほろ苦い気持ちになるのは未だに彼の死がもたらす喪失感が私にとって大きいからだ。しかしこの悲しみの中にも、「もの派」を代表する彼と出会えたという喜びがあり、そして彼が遺した作品によって私たちが永遠に彼と通じることができるという安らぎも感じるのである。

2020年4月19日

翻訳：パティエ・ナム / 田中尚子